

小委員会活動完了報告

2016年熊本地震による被害調査・分析小委員会

Takaaki IKEDA, Nagaoka University of Technology

概要

●目的

2016年熊本地震の被害状況を幅広く集約し，分析を行い，今後の内陸直下型地震に対する地震災害軽減に資する資料として整理し，地震防災・災害軽減に関する研究者，技術者，事業者等の間での共有を図る

●委員会構成

【活動期間】 平成28年10月～平成31年3月

【委員総数】 29名

委員長 池田隆明（長岡技術科学大学）

副委員長 庄司 学（筑波大学）

幹事長 豊岡亮洋（鉄道総合技術研究所）

副幹事長 渡邊学歩（山口大学）

概要

●委員構成

小長井一男(横浜国立大学)	清田 隆(東京大学)
吉見 雅行(産総研)	岩田 秀治(JR東海)
市村 強(東京大学)	梶田 幸秀(九州大学)
高橋 良和(京都大学)	荒木 功平(山梨大学)
松田 泰治(九州大学)	後藤 浩之(京都大学)
林 大輔(清水建設)	渡辺 和明(大成建設)
橋本 隆雄(国土舘大学)	岩坪 要(熊本高専)
北原 武嗣(関東学院大学)	葛西 昭(熊本大学)
沼田 宗純(東京大学)	若松加寿江(関東学院大学)
幸左 賢二(九州工業大学)	丸山 喜久(千葉大学)
大角 恒雄(防災科研)	野口 聡(東急建設)
濱野 雅裕(IIT日本技術開発)	伊藤 雪(利インテリコサルツ)
大越 靖広(熊谷組)	

平成30年度の活動概要

1)委員会・WG活動等

- ・第1回委員会 8月29日北海道大学

2)行事等

- ・2016年熊本地震被害調査報告書 講習会
4月26日、東京大学武田ホール、246名参加
- ・研究討論会「2016年熊本地震が突き付けた課題」
8月29日、北海道大学

3)出版物等

- ・特になし

4)小委員会活動補助費決算報告（重点研究課題含む）

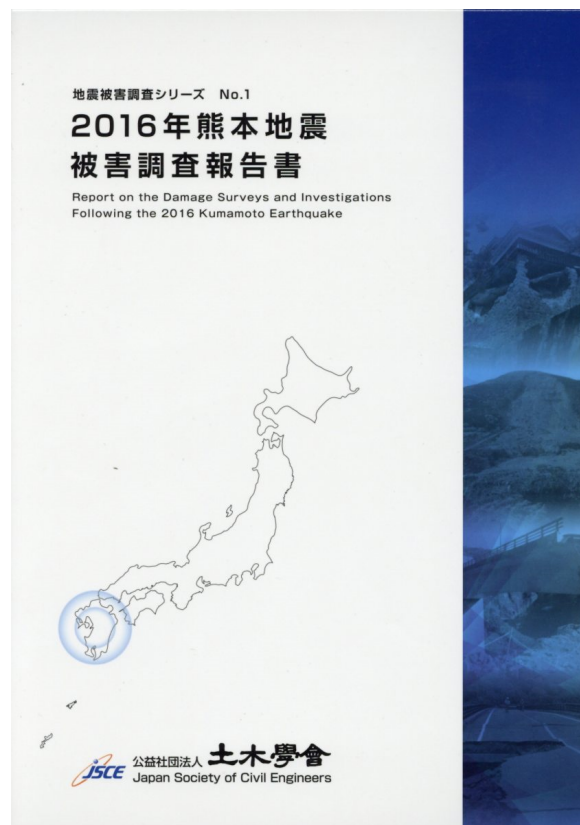
- ・支出額：14,890円

- 報告書
 - ・ 2016年熊本地震被害調査報告書 作成
- 報告会
 - ・ 2016年熊本地震1周年報告会
 - ・ 2016年熊本地震被害調査報告書 講習会
 - ・ 研究討論会「2016年熊本地震が突き付けた課題」
- 横断的研究
 - ・ 平成29年度土木学会重点研究の実施
2016年熊本地震における社会基盤・システム被害の追跡調査と検証
- その他

2016年熊本地震被害調査報告書

- 目的
 - 多くの研究者，研究機関が行われた調査・分析・検討結果を集約し，貴重な資料としてアーカイブする
- 分野横断的な取り組み
 - 地震災害に対する総合的な防災・災害軽減を考える上では，構造物の被害といったハード面の問題から，地震後の交通や物流といったネットワークや避難といったソフト面の問題，そして工学以外に自然現象としての地震に関する理学分野を含む幅広い専門家が横断的に取り組む必要がある。
- 委員会横断
 - ・ 地震工学委員会
 - ・ 地盤工学委員会
 - ・ トンネル工学委員会
 - ・ 水工学委員会
 - ・ 土木計画学研究委員会
 - ・ 西部支部
 - ・ 民間企業

目次	
第1章	被災地域の概要
第2章	地震・地震断層・地震動
第3章	地盤の被害
第4章	道路橋の被害
第5章	道路トンネルの被害
第6章	ダム・ため池の被害
第7章	港湾施設の被害
第8章	鉄道施設の被害
第9章	ライフラインの被害
第10章	積石構造物の被害
第11章	河川構造物の被害
第12章	災害対応
第13章	大学の対応・活動



報告会

2017年度

- ・ 2016年熊本地震1周年報告会
4月26日：九州大学医学部百年講堂大ホール

2018年度

- ・ 2016年熊本地震被害調査報告書 講習会
4月26日、東京大学武田ホール、246名参加
- ・ 研究討論会「2016年熊本地震が突き付けた課題」
8月29日、北海道大学

平成29年度重点研究課題

●課題名称

2016年熊本地震における社会基盤・システム被害の追跡調査と検証

●目的・背景

- ・2016年熊本地震の被害は甚大であり，継続的な調査・研究が必要。
- ・地震後1年(本研究申請時)を迎え，復旧から復興へ移行するにあたり，地震被害状況が整理され，新しいデータや詳細なデータを入手できる状況が整ってきた。
- ・地震被害調査報告書作成のため集約した調査・研究成果をベースに，さらなる調査・分析を行い，地震被害の実態と原因を明らかにすることを目的に本調査研究を実施。

●予算

200万円

平成29年度重点研究課題

●研究委員

地震工学委員会

○池田隆明（長岡技術科学大学）

松田泰治（九州大学）

梶田幸秀（九州大学）

橋本隆雄（国土舘大学）

矢部正明（株式会社長大）

高橋良和（京都大学）

鈴木崇伸（東洋大学）

庄司 学（筑波大学）

香川敬生（鳥取大学）

地盤工学委員会

鈴木素之（山口大学）

荒木功平（山梨大学）

水工学委員会

大本照憲（熊本大学）

トンネル工学委員会

蔣 宇静（長崎大学）

土木計画学研究委員会

柿本竜治（熊本大学）

円山琢也（熊本大学）

西部支部

末次大輔（佐賀大学）

平成29年度重点研究課題

●研究組織

地震工学委員会

- ・ 2016年熊本地震による被害調査・分析小委員会
- ・ 断層帯近傍における地震動メカニズム検討小委員会
- ・ 性能に基づく橋梁等構造物の耐震設計法に関する研究小委員会
- ・ ライフラインに係わる都市減災対策技術の高度化に関する研究小委員会
- ・ 城壁の耐震診断・補強に関する研究小委員会

地盤工学委員会

- ・ 地盤工学委員会斜面工学研究小委員会

平成29年度重点研究課題

●研究対象

調査・研究の優先度が高い以下の9項目を選定

- ①地震動
- ②斜面災害
- ③道路トンネル
- ④道路構造物
- ⑤橋梁構造物
- ⑥ライフライン
- ⑦河川構造物
- ⑧積石構造物
- ⑨仮設団地居住者の住まいの意向変化の分析

● 報告書

9章構成（233ページ）, 土木学会のwebサイトを通じて公表



小委員会全体(平成28年度～平成30年度)の活動概要

● 報告書

- ・ 2016年熊本地震被害調査報告書 作成

● 報告会

- ・ 2016年熊本地震1周年報告会
- ・ 2016年熊本地震被害調査報告書 講習会
- ・ 研究討論会「2016年熊本地震が突き付けた課題」

● 横断的研究

- ・ 平成29年度土木学会重点研究の実施
2016年熊本地震における社会基盤・システム被害の追跡調査と検証

● その他

- ・ 横断的研究の推進
- ・ 被害調査報告書のシリーズ化